

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成17年度～		根拠法令・規程等	医療法、備前市国民健康保険病院条例	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり				
	中項目	基本施策	02	健やかに生き生きしたまちづくり				
	小項目	施策	07	病院事業				
事務事業名		07	日生病院運営事業		担当者(室)	市立日生病院		
			職・氏名	事務次長 岡正千丈		問合先	電話	0869-72-1111

事業の実施		対象(誰・何に対して)	出資者である市民	
		目的(何のために)	市立日生病院基本理念に基づき、安心・安全で地域に開かれた医療の提供と計画的・効率的な病院経営の推進を図る。	
		行政活動(どのような方法で)	院内各種委員会等において、患者サービスの向上及び医療事故防止策等検討・協議する。また、毎月の病院運営状況を統計・分析し、必要に応じて経営健全化計画等の見直しを図る。	
		事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	患者と病院が相互に信頼し、健康増進と疾病の予防及び地域に開かれた温かく、親しみにあふれる医療の提供ができる病院とする。また、経営の改革と基盤強化に取り組み、経営の健全化及び事業の活性化に努めながら安定した病院経営とする。	

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	管理協会	回	12	12	14
	医療安全管理委員会	回	12	12	12
	院内感染対策委員会	回	12	12	12
	サービス向上委員会	回	12	12	24
栄養給食委員会	回	12	12	12	
実績	直接事業費	千円	36,974	38,567	37,315
	必要人員人件費	千円	4.30人	4.13人	37,580
	事業費計	千円	73,849	73,857	74,895
	国県支出金	千円	284	284	284
	受益者負担金	千円			
財源	一般会計繰入金	千円			
	市債	千円			
	収益的収入	千円	84,795	85,140	74,204
一般財源					
受益者負担比率		%			

結果指標名					
結果指標①	結果指標	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	幹部会議	説明	会議出席者延数		
	結果指標量		74	80	84
	対前年比%		108.1%	108.1%	108.0%
結果指標②	活動コスト	円	2,416,000	2,433,000	2,362,000
	単位当たりコスト	円	32,649	30,413	28,119
	各種委員会	説明	各種委員会出席者延数		
	結果指標量	人	196	205	283
対前年比%		104.6%	104.6%	138.0%	
活動コスト	円	5,039,000	5,075,000	5,316,000	
単位当たりコスト	円	25,709	24,756	18,784	

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
決算における純利益の計上及び留保資金の確保	目標値(A)	10,000千円	10,000千円	10,000千円	5億円以上
	実績値(B)	30,064千円	39千円	37,391千円	到達目標年度
	達成率(B/A)	300.6%	0.4%	373.9%	25年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
安定した病院経営を維持するため、成果指標を純利益1千万円に設定。また、21年度以降、病院建設費にかかる企業債元利償還金が増加することから、引続き運用資金の拡充を図る必要がある。このため、到達目標値として留保資金5億円以上を設定。 ◇留保資金(流動資産-流動負債) 18年度: 350,420千円、19年度: 432,309千円、20年度: 529,650千円					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 ●医師確保が困難な状況の中で、循環器内科及び婦人科を増設。また、市民からの要望に対し各種委員会で実情調査とその対応について協議。結果を院内掲示等により回答し、対応可能なものは早期に改善するなど地域住民ニーズに応えた。 ◆医療圏全体では医師数、病床数とも不足はないとされているが、基幹病院は不足して岡山市に集中している。また、周辺部では医師や看護師が不足し、医療機能は低下している感がある。このため、医療機関相互の機能分担と連携が必要。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 診療科の増設、診療待ち時間の短縮など	効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 ●他病院の情報を広く収集し、薬品・診療材料等の材料費の削減と委託・賃借料の複数年契約の実施等により経費削減を行う。 ◆医療サービスの向上、経営の健全・効率化、経営基盤の強化の観点から引続き医療機関相互の連携と機能分担を推進し、医療提供体制の改善を図る必要がある。
	効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況								
目標値	結果指標量①	延べ84人	結果指標量②	延べ248人	成果指標量	10,000千円		
状況		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
				○				
説明	経営効率化を推進するため、民間の経営手法の導入、経費削減・抑制対策、収入増加・確保対策等について市立3病院で引き続き検討する。							

総合評価		評価区分<A~E>
各種委員会で①医療事故・ヒヤリハット事例の検証と対策、②院内感染予防対策マニュアルの見直し、③患者からの要望・意見に対する対策とその内容の公表、④全職員を対象としたサービス向上のための目標設定とその検証、⑤職員の資質向上を目的とした院内研修などを実施したことにより、患者満足度の向上と職員の意識改革を促すことができた。また、成果指標である純利益の計上と留保資金の拡充を図ることができた。 しかしながら、現状維持のままでは患者数の増加を今以上に見込むことは困難であり、安定経営を維持するためには、公立病院改革プラン及び経営健全化計画に沿って事業内容の分析と見直しを引き続き行い、経営の健全化に一層努めなければならない。		
B		

平成22年度以降の方向性・内容								
方向性		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
				○				
説明	公立病院改革プラン及び公営企業経営健全化計画に沿って事業の検証と見直しを毎年行う。また、市立3病院の再編・ネットワーク化及び経営形態の見直しについても検討委員会で結論の取りまとめを行う。							
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果				
	妥当性	公立病院改革プランに基づき、事業の分析と見直し	毎年	経営基盤の安定と長期的事業運営の確保				
	効率性	医療スタッフの確保と医療機器の整備	毎年	医療サービスの向上と安全・安心な医療提供の充実				
	有効性	経営分析・検討による適切な経営状況の把握	毎年	患者数の増加と収益増による安定経営				